

＜日本イギリス哲学会 第109回部会関東例会 報告要旨＞

第一報告： ヒュームにとって優れた証言者であるとはどのようなことか ——歴史家の有徳さに関する一解釈——

高萩 智也

本報告は、デイヴィッド・ヒュームのいくつかの著作から、証言という人間の営みに関する彼の洞察を明らかにしようというものだ。

ヒュームの証言論に関するこれまでの解釈研究は主に、『人間知性研究』第十節「奇蹟について」を対象として、宗教哲学的な文脈で、あるいは、現代認識論においてコーディ(1973)が提起した問題をめぐる文脈で行われてきた。これらの研究の方向性はいずれも、証言という営みのうち聞き手の合理性や知識に注目したものであったと言える。

これに対して本報告では、ヒュームの証言をめぐる洞察における、証言の話し手に関する記述に注目し、「ヒュームにとってよい証言者であるとはどのようなことか」を明らかにしようと試みる。その際、これまでの証言論の解釈研究が主に依拠してきた『人間知性研究』だけでなく、『人間本性論』や『道徳政治文学論集』に納められた「歴史を学ぶことについて」や「趣味の標準について」などのいくつかのエッセイを用いる。

報告者は、ヒュームが「歴史家 (historian)」を優れた証言者の典型とみなしていることから、優れた証言者であるとは歴史家が持ち合わせている有徳さを持つことだ、と結論するとともに、その有徳さが単に信頼性の高さに尽きないことを示す。

こうした結論を導くにあたって本報告はまずヒュームのいくつかのテキストから、彼が「証言する」という行為の本性に関して述べていることを整理する。次に『道徳政治論集』の「歴史を学ぶことについて」などから、ヒュームが証言の典型例として人物の行為や性格、出来事に対する評価を含んだ判断を念頭に置いていること、そして、ヒュームがそうした判断を優れた仕方で行うことができる人々として歴史家を想定していることを確認する。最後に、「趣味の標準について」などのテキストから、歴史家と批評家を類比的に捉えられると論じた上で、歴史家が証言することに関して優れている理由を明らかにする。

(慶應義塾大学・院)

第二報告：18世紀イギリスにおける‘credit’の論じられ方

——思慮深さと制度——

伊藤 誠一郎

拙著 *English Economic Thought in the Seventeenth Century: Rejecting the Dutch Model* (Routledge, 2020) で示したように、17世紀のイングランドでは、いかに先進国オランダの経済・社会モデルを真似ることによって、戦わずしてオランダを打ち負かすことができるか、すなわち経済的に追い越すことができるかということが論じられ、とくに世紀後半には、より安全な担保をとり、その担保の管理や信用の発行において信頼できる銀行制度をいかに作ることができるかがイギリスのトレードを論ずるものたちの大きな関心となり、そこにイングランド固有の経済論説の在り方が見えてきた。その経済論説はさらに展開し、17世紀末の土地銀行論争、18世紀を通じて商業・貨幣についての知識の重要なよりどころとなったチャールズ・ダヴナントの「信用」論、ジョン・ローの土地銀行論、サー・ジェームス・スチュアート、アダム・スミスの信用や銀行についての議論、そしてこれらの論説の合間を埋める大量の銀行企画案など、長い18世紀においても、前世紀後半同様、信頼できる制度的信用の設立が、ブリテンの銀行論・信用論の主たるテーマであり、貨幣や資本の単なる量的な増加だけが求められていたわけではなかったことを本報告では明らかにしたい。またその際、初期近代ブリテンの信用をめぐる議論における、このような制度への視点が、つねに *reputation*、そしてそれを導き出す *honesty*、そして銀行などの信用制度の運用の際に求められる *prudence* にもとづいていたことも明らかにする。歴史家 Muldrew は17世紀においても18世紀においてもこのような社会的・倫理的基盤が非制度的な信用を成り立たしめてきたことを明らかにしたが、本報告では、17世紀を論じた拙著と同様、18世紀においてもそうした基盤は信頼できる制度的な信用の確立のためにこそ必要なものとして求められていたことを明らかにしたい。このような視点からすると、近代的な紙券信用論を確立したとされるスミスの銀行信用論も、正義に基づいているという理由から自然的自由への制限が正当化されるという、制度論としての自由の問題としてスミスの銀行論を論ずるのではなく、銀行制度というものが最終的には商人や銀行家の *prudence* に依拠しており、そのうえでこそ、信頼できる制度を求めていたということも理解できる。

(大月短期大学)